

季節によって、工場で生産されるさまざまな物の量が変わることは、皆さんもご存じだと思います。

グラフは、山口県における自動車などの輸送用機械工業の平成25年、同26年の「鉱工業生産指数」の動きを示したものです。生産量をもとに生産活動の状況を指数化したものですが、原指数のグラフ（実線）をみると、いずれの年も4月と5月、8月に大きく低下しています。輸送用機械工業以外の製造業でも、多くが同じ時期にやはり低下していますが、これはゴールデンウィークやお盆の時期に稼働を休止する工場が多いためです。

ほかにも食料品などはその原料となる農産物の収穫時期の影響を受けますし、清涼飲料、エアコン、石油ストーブ、灯油などは、季節による需要量の変動により生産量も変わります。

鉱工業生産指数は景気を判断する指標の一つとして利用されますが、このような季節的な影響を受けたままでは、景気の動向がわかりにくくなります。このため景気を判断するときは、原指数から季節特有の影響を取り除いた「季節調整済指数」が利用されています。

輸送用機械工業のグラフでは、平成26年4月、5月、8月の原指数が大きく下がっているのに対し、破線で示されている季節調整済指数はそれほど下がっていないことがわかるとと思います。

県では、本県の毎月の鉱工業指数を翌々月の中旬にホームページで公表しています。どうぞ一度ご覧ください。

